


地下水の浸食で浪の形がついた貝殻石灰岩
浪形岩



指定区分	県指定天然記念物
読みかた	なみがたいわ
所在地	井原市野上町(千手院)
指定年月日	昭和31年4月1日
解説	造陸運動によって隆起した新生代第三紀(約2000万年前)の貝殻石灰岩が千手院の庭に露出している。岩肌が地下水により浸食され、波に洗われたあとのように見えるところから浪形岩の名称がつけられた。この辺りは、ほぼ水平な地層で、礫質岩からなる下部層、砂質岩からなる中部層、多量の貝化石を含む上部層の3層よりなり、基盤の粘板岩、花崗岩、流紋岩類を不整合に覆っている。この石灰岩はカキ、ハネガイ、ベンケイガイなどの貝類の化石から形成されており、まれにサメの歯、ウニの化石も見られる。
アクセス方法	
公開状況	自由
設備	 駐車場
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定天然記念物
ぶんかざいめい (文化財名)	浪形岩
よみかた	なみがたいわ
しよざいち (所在地)	井原市野上町(千手院)
していたひ (指定した日)	昭和31年4月1日
せつめい	<p>およそ2000万年前の貝殻石灰岩(かいがらせっかいがん)です。貝類(かいるい)の化石(かせき)でできており、中にはサメの歯(は)やウニの化石も見られます。当時(とうじ)はこのあたりはあさい海でしたが、土地(とち)がもりあがって今の位置(いち)にあらわれました。岩肌(いわはだ)が長い年月(ねんげつ)をかけて地下水(ちかすい)で溶(と)かされ、波(なみ)に洗(あら)われたような跡(あと)がついています。</p>